



コウユー工業代表(南魚沼市)

原 里志さん

20歳の時に知人の紹介で「カッター屋」の世界に足を踏み入れた。そこでこのノウハウを生かして26歳で独立。紆余曲折あったが「お客さんへの対応を一番に心掛けている。自分の仕事はサービス業だと思っているので、電話一

本で現場に駆けつけて、信頼関係を構築してきた」と振り返りつつ、人と人

			基	
			幹	
	聞		技	
	く	に	能	
			者	

「切断穿孔を独立業種に」意欲

の出会いに感謝を表す。いまでも1日に数カ所の現場を担当し「あいさつを第一に、コミュニケーションを積極的に図っていく」という。

過去には新潟県湯沢町の砂防ダム現場で長さのあるコア抜きに苦勞し、連日深夜まで作業したことも。「携わる部分は工事全体のわずかでも、欠かせない工程となる場合があること胸を張る。主な業務はコア抜きと道路切断。建設業許可ではとび・土工業に分類されるため、「切断穿孔が独立した業種と

なれば」と話す。ダンピング(過度な安値受注)や社会保険未加入、若年技術者不足などへの関心も高く、「行政による早急な取り組みが求められている」との考えを示す。今後は会員企業である新潟県切断穿孔工法研究会を通じて業界の窮状を訴えていく考えだ。

「登録基幹技能者のメリットはまだ見えない」としながらも、「工事案件で有資格者の優位性を出せるようになってほしい」と力を込める。
南魚沼市出身、44歳。